

## 特集にあたって

LCC（格安航空会社）の台頭により国際線利用のハードルが下がり、また、スマートフォン、タブレット、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）といったインターネット関連の発達に伴い、世界の情報がすぐに手に入れられるようになってきたことから、ますます世界と日本が身近になる中、国際交流、国際理解の重要さは、以前よりさらに増しています。

また、留学生、実習生、国際結婚などの海外からやってきて日本で生活をしている人々や最近話題の外国人旅行者（インバウンド）に対しても単に経済的利益の面からだけでなく暖かな受入体制を地域でソフト、ハード両面で整備する事は大切な課題です。そうした中、今回は、国際交流や国際理解という観点で、地域づくりについて考えていきたいと思います。

今回の特集テーマである「国際交流と地域づくり」においては、愛媛県全体の国際化に向けた取り組み、ドイツのローテンブルク市との姉妹都市提携で有名な内子町の取り組み、大学の留学生に対する受入体制、インドネシアの大学生とともに農山漁村に入り展開するサービスラーニング・プログラムについて、インバウンドに対する地域の受入体制、外国人お遍路さんに対するの受入など国際交流に長年携わる行政、大学、NPO等バリエーション豊かな主体の方々を取り上げています。

今回の特集により、それぞれの地域で外国人の方の受入体制づくり、整備が行われるきっかけになるとともに、地域を見直す、あるいは考える良い機会になればと期待しています。

えひめ地域政策研究センター

所長（専務理事）小池 賢治